

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	令和元年8月14日
名 称	令和元年度 第2回安平町未来創生委員会		
日 時	令和元年8月5日 午前・ 午後 3時00分～5時15分		
場 所	安平町役場総合庁舎（第1会議室）		
出席者	安 平 町 及川町長（政策推進課）木林課長、渡邊課長補佐、木村主幹、笹山主査 （総務課 復興・生活再建支援室）柳原補佐 委 員 未来創生委員会委員・外部有識者 14名 コンサルタント会社 4名		
会議概要	<p>1 開会（進行：政策推進課長） ◇過半数の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委嘱状交付 ◇及川町長から第3期未来創生委員会委員へ委嘱状交付、外部有識者へ任命書交付。</p> <p>3 町長挨拶 ◇第3期目の委員及び外部有識者の皆様には、快くお引き受けいただき感謝申し上げます。 ◇昨年9月の震災から来月で1年となり、少しでも早い復興へ向けて着実にまちづくりを進めていきたいと感じているところであり、今後の復興に向けては、早来中学校の再建による小中一体型の学校建設などを予定している。 ◇この難局をチャンスに変え、「震災前よりも魅力ある町」を目指して、各お立場からのご意見・ご助言をいただきたい。</p> <p>4 安平町未来創生委員会委員及び外部有識者のご紹介 ◇委員及び外部有識者の紹介（省略）</p> <p>5 議事</p> <p>（1）委員長・副委員長の選出について（進行：政策推進課長） ◇安平町未来創生委員会条例第4条に基づき選出。 （副委員長は委員長より指名）</p> <p>（2）安平町未来創生委員会の役割について【会議レジュメ4ページ】 （説明：政策推進課）</p> <p>【概略説明（ポイント）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の任期は2年（令和元年6月～令和3年6月） ・「第2次安平町総合計画」「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」「安平町復興まちづくり計画」に関し、計画の策定・見直し・進行管理に関することを行っていくことが役割となる。 <p>[意見・質疑なし]</p> <p>（3）第2次安平町総合計画 前期基本計画 評価・検証について【資料1】</p>		

(説明：政策推進課)

【概略説明（ポイント）】

- ・第2次総合計画 前期基本計画（2017～2018年度）の進捗状況の把握と、評価・検証を政策分野毎に実施。政策分野に紐づく指標項目は3段階で評価し、全体の進捗状況を把握している。
- ・全体で57%が達成又は改善中であるが、震災の影響もあるため全体的には「やや遅れている」と評価している。

<外部有識者>

前期基本計画の評価・検証を踏まえて、未来創生委員会の中で中期基本計画を作成していくということによろしいか。

<政策推進課>

そのとおりである。

<委員>

子育て・教育分野において50%が現状値未満となっているが、その要因は何か。

<政策推進課>

進捗状況はH29～H30の実績であり、特にH30については、震災の影響もあり、子育て教育に不安を持つ方も多く、かつ、地震後3カ月の人口流出が顕著であったことなどが要因の一つであると認識している。

<委員>

「育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち」という将来像を実現していくためには、子育て・教育は非常に重要な分野と考える。

(4) 安平町復興まちづくり計画 策定状況について【資料2、3】

(説明：政策推進課)

【概略説明（ポイント）】

資料2、3に沿って次の内容を説明。

- ・安平町復興まちづくりに関する意向調査の集計結果
- ・6月町民まちづくり懇談会の結果
- ・復興まちづくり計画の骨子

<委員>

仮設住宅等入居者の住み替え対応について、みなし仮設住宅に入居していて、みなし仮設住宅を購入する場合は、中古住宅として家賃助成・購入助成・リフォーム助成の対象になり得るか。

また、これら制度は国の支援制度とは別に支援するものという理解でよいか。

<政策推進課>

国の生活再建法に基づく支援に上乗せする形で、町独自の支援が出来ないかということで検討をしているところであり、みなし仮設住宅を購入する場合には今後検討していく。

<委員>

安平町自治会等災害支援金支給制度について、町内会としては非常にありがたいが、自治会・町内会として会館を所有する団体はあるか。

<政策推進課>

早来地区において、過去に補助金を活用し自治会で建設したということが数箇所ある。

<委員>

公的住宅の整備について、安平地区には整備されないような事業（素案）となっているが、公的住宅があれば安平地区に戻りたいという方もいるため、町内4地区全てに整備していただければと考える。

<政策推進課>

建設課にて実施した仮設住宅入居者を対象としたアンケートにおいて、入居希望地区を調査し、その結果から追分・早来・遠浅地区で検討案を作成したもの。今後、支

援策を示しながら健康福祉課において個別の意向調査を行っていくこととしております。

<委員>

安平町復興まちづくりに関する意向調査の手法について、少し事務的に感じており、若い世代の意見が得られていないところが残念に感じる。もう少し伝わるような周知の方法も検討していかなければならないと考える。

<政策推進課>

各種計画作りをしていく中において、行政側として足りない部分であり、かつ、若い世代の意見を取り入れていくことが重要と認識している。震災前に総合計画中期基本計画の策定をする際に、子育て世代をターゲットとした「子育てパパ・ママ座談会」を実施しており、ライフプラン講座を行いながら意見の抽出を行った事例があり、そういった個別での意見抽出など、使い分けをしていくことが有効であると考えます。

<委員>

復興まちづくり計画に基本方針2（1）地域コミュニティの維持強化・地域防災力の向上とあるが、どの辺りまでを計画に盛り込んでいくイメージか。

<政策推進課>

防災キャンプや自主防災組織の立ち上げを促していくなど、防災教育を拡充していくなどを盛り込むイメージを持っている。

<委員>

基本方針3に「再生」とあるが、どの程度まで再生していくのか。また、基本方針4の「安心して暮らすことができる環境づくり」もテーマが大きすぎるような印象を受ける。

<政策推進課>

復興まちづくり計画を策定していく際には、総合計画の一部に復興まちづくり計画を位置付けていくため、リンクする部分や後期計画の方に継承されていく部分があるという整理をしている。

また、事業や支援策などをロードマップに落とし込みながら、分かりやすい計画づくりを検討している。

<外部有識者>

意向調査の問9「震災直後の地震や避難に関する情報源」について、あびらチャンネルが10%未満となっており、また、問17では情報伝達手段の改善に関する意見が多くある。その上であびらチャンネルの視聴割合という指標項目が改善されているというところに違和感がある。あびらチャンネルの位置付けはどこにあるか。

<政策推進課>

あびらチャンネルの有効活用については、議会からも提言をいただいている部分である。災害時にはあびらチャンネルだけではなく、情報の多重化が重要という観点から多様な情報伝達手段の確保を進めているところ。町としても情報発信について検証は必要という認識はあり、新たに何かを整備するというよりは、災害時にどういう風に情報を伝えられるかというところを構築していかなければならない。

<委員>

情報発信に関し、各家庭にタブレットを導入している自治体もあり、イベントや検診情報の伝達、デマンドバスの予約などが出来るほか、災害時にも活用できると考える。

(5) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成30年度 地方創生推進交付金事業の評価・検証について【資料4】

(説明：政策推進課)

【概略説明（ポイント）】

- ・地方創生推進交付金事業である『地域資源・地域住民力の活用と集結による道の駅を拠点とした「あびら賑わい創出プロジェクト」』の3年目（平成30年度）事業内容について評価・検証を実施。

<委員>
道の駅に遠浅地区から向かう際に、土日にバスの運行が無く、また、JRを活用したとしても駅からは遠いため、バス運行を検討していただきたい。

<政策推進課>
安平町の循環バスについては、今年度4月から運行したばかりであり、まだ検証の段階ではないため、まずは一年間運行し、検証をしていくという方向性である。

<委員>
道の駅は平日も利用者が多く、7月前半まではツアーなどが入ってきている状況。ベーカリーの売上も好調であり、8月以降も夏休みなどがあり増えていくことが想定される。動くSLは非常に希少価値が高く、興味を持つ方、特に子供連れが増えており、さらにはリピーターも増加傾向である。
SLを今後も動かしていくためには、保存会の力が必要であるため、後継者育成などが課題であると認識している。

<政策推進課>
進捗状況はH29～H30の実績であり、特にH30については、震災の影響もあり、子育て教育に不安を持つ方も多く、かつ、地震後3カ月の人口流出が顕著であったことなどが要因の一つであると認識している。

<委員>
道の駅のテイクアウトのごみに関して、食べ終わったらすぐにゴミ箱に行ってしまうことに違和感がある。環境に配慮するなどの対策も必要と考える。
また、子ども連れが多いということで、子どもが遊べるスペースがもう少しあればと思う。

<委員>
来年になるが、道の駅の外に併設する形で柏が丘公園が整備され、ふわふわドームなどといった子どもが遊ぶスペースが増える予定である。

<委員>
おむつ用の自動販売機があれば、小さい子どもがいる場合に非常に助かるという声を聞いている。
また、周遊について、各店舗の説明や距離感などを示せるようなものがあっても良いのかなと感じた。

<委員>
外国人向けのパンフレットがあれば、インバウンドなどの対応も可能と考える。

<委員>
丁度、インバウンド用のパンフレットを作成したところであるため、そういったものを活用いただければと思う。

6 その他

◇次回、未来創生委員会は10月下旬を予定。

7 閉会

以上、終了。(17:15)